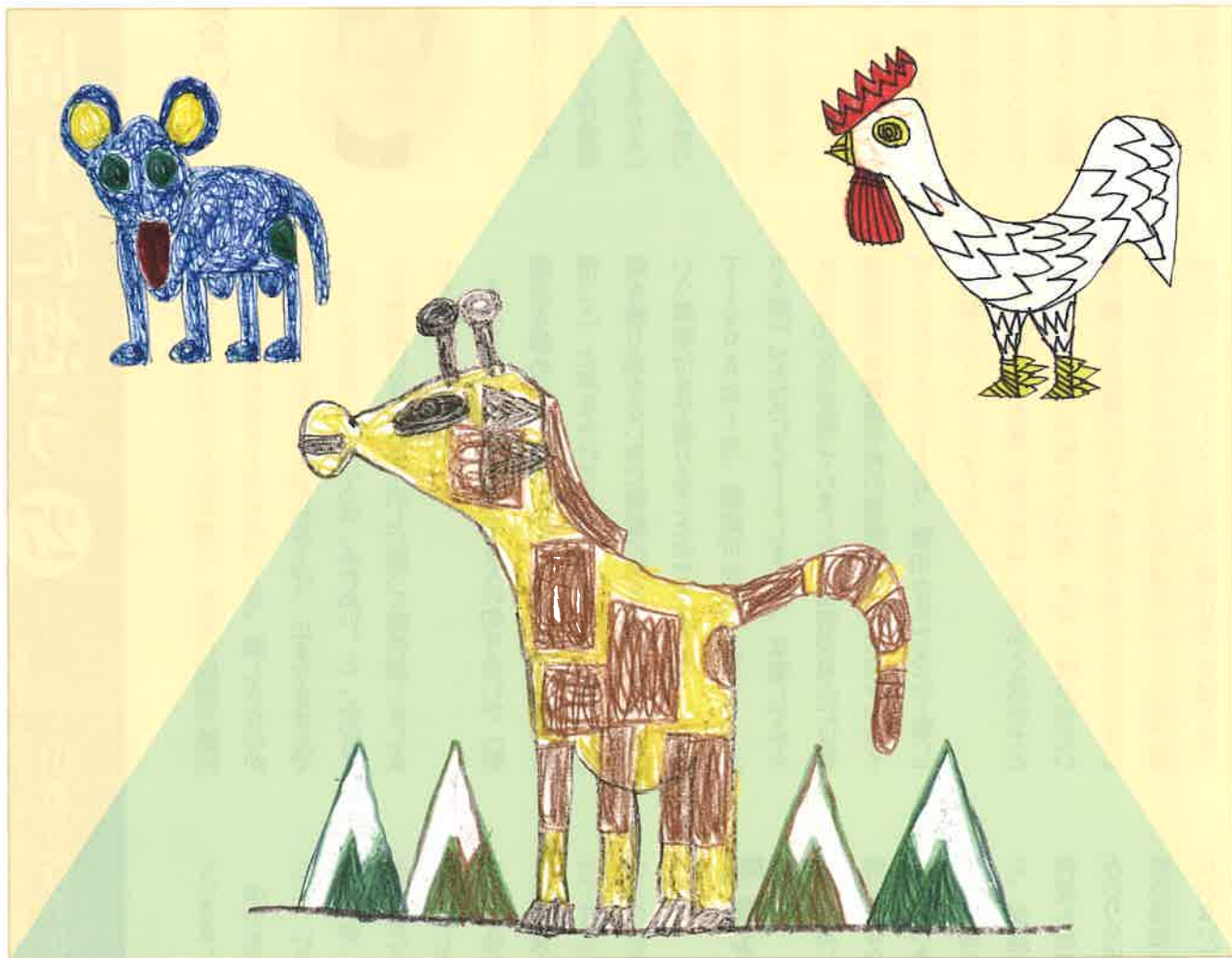




ゆたか福祉会キャラクター
ゆたかめくんとみらいちゃん

障害者の ゆたかな **未来** をめざして



「にわどり・ぎりん・ねずみ」ゆたか作業所 田口 圭さん ※紹介が10ページにあります。

CONTENTS

- ▶ シリーズ 50 周年に想う⑦ P2～3
「咲かせたい 夢や願いを地域の中で」～山あり 谷ありの四半世紀を経て今～
- ▶ スタートした「かさでらホーム」～4ヶ月が経って～ P4
- ▶ 2019 年度 正規採用職員研修スタート P6～7

2019年9月10日 毎月1回10日発行 一部100円（法人会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます）

発行 / 社会福祉法人ゆたか福祉会 〒457-0852 名古屋市南区泉楽通四丁目5番地3
TEL 052-698-7356 FAX 052-698-7358 <http://www.yutakahonbu.com/>



愛知県ファミリー・
フレンドリー・マーク

ゆたか福祉会

検索

連載

シリーズ 50周年に想う 27

「咲かせたい夢や願いを地域の中で」

～山あり谷ありの四半世紀を経て今～

ワークセンターフレンズ星崎家族会会長 境田 るり子

ゆたか福祉会との出会い

私がゆたか福祉会と出会ったのは24年前、圭祐と

同級生の竜輔君が高等部を卒業する時でした。卒業しても通える作業所が



なく、在宅を余儀なくされ途方に暮れていた時に、ゆたか作業所の篠塚所長から「自分たちで作業所を作りなさい。ノウハウもバックアップもするから」と背中を押して頂きました。そして「物件が見つかるまで」という約束で、竜輔君はふれあい共同作業所に、圭祐はみのり共同作業所でお世話になることができました。

親の私達は不動産屋を巡ったり、知り合いに声をかけたりして物件を探しました。幸い私が勤めている会社の奥さんが「今まで社員寮で使っていた借家があるけど、使う？」と声をかけてくださいました。「一も二もなく「お世話になります」と返事をし、すぐに机と椅子を運び込みました。「やっとこれで始められる」と安堵していた矢先、「あなた達に貸した覚えはない」と大家が怒鳴り込んでき

たのです。ビックリした私達は、夜逃げ同然で娘の部屋に荷物を引き上げたのでした。悔しさなのか辛いのか分からない涙が込み上げ、止まりませんでした。その後、また一人は「ふれあい」と「みのり」にお世話になり、振り出しに戻って物件探しをしました。

そんな時、竜輔君のお母さんの知り合いが「新聞店を辞めて使っていないから、無償でその場所を使つて」と声をかけてくださいました。最初の失敗を繰り返さない為に慎重に話を進め、三年間という期限付きで借りることができました。こうして1996年1月、無認可作業所「フレンドハウス南」が正式にスタートしました。卒業してからすでに10か月が経っていました。運営委員会には篠塚所長や南養護学校の進路指導の先生がアドバイザーとして入って下さり、無知な私たちに丁寧にから教えてくださいました。

資金も知識も無い私たちは、とにかく我が子と同じ悩みを持つ仲間たちの為、まず「咲かせたい夢や願いを地域の中で」をスローガンにかかげました。そしてたった一人だけで毎週のバザー出店で資金を作り、サマースクールや土曜作業で実績を作っ

ていきました。

中でも一番大変だったのは、仲間の仕事さがして、いろいろな会社に仲間をつれてお願いに行くのですが、断られ、断られ、それでもお願いにまわる毎日に心が折れそうでした。僅かな工賃でも仕事を回してくれる会社があると、「やっとこの子たちも社会参加が出来る」と涙が出るほど嬉しかった事を覚えています。あの時のパワーは今では色あせてきていますが、「若かったし、必死だったから出来たのかな」としみじみ思います。

親として忘れられない出来事

ふれあい共同作業所が30名の認可作業所になる時に、ゆたか福祉会から「みのり分場の仲間全員がふれあいに移るため、フレンドの仲間がみのり分場に移りませんか」というお話がありました。保護者は仲間にとってどうした方が良いのか、何度も何度も協議を重ね、出した答えは「全員でのみのり分場に行きます」でした。しかし、名古屋市の通知は「フレンドハウスからの仲間は受け入れられない」との回答でした。私たちは愕然としま

した。すぐにゆたか福祉会と名古屋市の協議をはじめましたが「全員ではなく、4名の入所は認める」という結果でした。

フレンドにとって4名と職員1人が抜けることは大きな試練の始まりでもありました。送り出された4名はみりの分場の保護者をまとめ、「2日も早いフレンドとの統合を目指していく」との出発でした。しかし、無認可の親と措置制度の作業所に入った親との温度差が大きく、その差をどのように埋めていけるのか悩む日々となりました。

「フレンドとの統合を目指すなら、毎日通える自分たちの自前の作業所があればいいな」と思い、物件探しを頑張り、2003年4月、立地条件も文句なしの建物を購入することが出来ました。しかし競売物件の為、現金で支払わなくてはならず、フレンドが貯めた事業活動、両施設の親、職員、関係者からの寄付、債権を募つての購入でした。

各家庭にとっては大変な協力だったと思います。誰一人文句を言わず協力して下さいったことに感謝しています。あの時程、「みんなの気持ちが一になった」と感じたことはありません。

■ 出会った職員に感謝

いま思うと、大変なことも多かったですが、沢

山の人助けしてもらいました。作業所を作るときは篠塚所長に、そしてゆたか福祉会の内定を辞めて来てくれた最初の職員の新城さんに…。彼に「どうして無認可に来てくれたの？」と聞くと、みのり作業所にアルバイトで来ていた時、仲間を大江川緑地に散歩に連れて行くと、在宅になった我が息子圭祐が、いつもベランダから手を振っていたそうです。「その時に抱いた矛盾を何とかしたかった」と話してくれました。

その後職員も、岩本さん、山崎さん、稲垣さんと増え、作業内容も、その子にあった治具を作成し充実していきました。圭祐はゆたか福祉会だけではなく、ニコニコハウスの皆さんにも宿泊体験をはじめ、関わりを持っていただきました。

■ 今思うこと

親の私たちは、「親亡き後、我が子が生活する場がほしい」「グループホームがほしい」と願っていました。そしてついに山崎所長はじめ、沢山の関係者の力を借りて願っていたホーム第号が2019年4月1日に開所しました。

ホームに入る前の圭祐は、フレンドに行きたくなって、行かせようとする私とバトルを繰り返していました。結局、圭祐の強さに負けてしまい、行け

るのは金曜日だけということも度々でした。ところがホームに入ると、月曜日でも嫌がることなくフレンドに出かけていくのです。フレンドからホームには、徒歩で30〜40分かけ、猛暑の日でも頑張って歩いています。今ではいろんな道を探索しながら、ホームに帰っているようです。

「親離れできない」と思っていました。しかし自立に向けて頑張っている息子を応援しながら、息子のことが気になり、夜な夜な外から圭祐の部屋を眺め涙する、まだまだ子離れが出来ないダメ親です。

「20歳まで生きられないでしょう」と医師から宣告されていた息子も、現在42歳となりました。ゆたかに出会え、そして沢山の人たちに支えられ、圭祐と一緒ここまで成長させていただきました。心より感謝しています。地域の中で頑張っている息子を見つめつつ、どんな形であれ地域に恩返しが出来ると分かっていこうと思います。



二人からのスタート(左:竜輔さん、右:圭祐さん)

スタートした「がさぞぐらホーム」

4ヶ月が経って

4月1日より7名の仲間が、ホームでの生活をスタートさせました。まずは「ホームを好きになってもらいたい」という思いから、開所してから2週間は、仲間が好きな食事を提供することにしました。唐揚げ、カレーライス、とんかつ、ハンバーグ等、栄養バランス重視というより、カロリー重視の献立でしたが、仲間たちは笑顔満載でご満悦でした!!

5月には誕生日会を行いました。ハンバーグ・フライドポテト・エビフライ・ホールケーキにジュースと、こちらも高カロリーメニューの提供となりました。バースデーソングに手拍子を交えて、「おめでとー」と祝われる仲間は、笑顔でロウソクを吹き消されていました。次に誕生日を迎える仲間は9月生まれ。「次は僕の誕生日!!」と今から心待ちにされています。誕生日を一緒にお祝いすることで、楽しい時間を共有することはとてもステキなことです。時間を重ねる中でお互いを知り合い、信頼関係を作

り上げ、全員で旅行へ出かけることができると願っています。

ホームの生活では、食事以外の楽しみのひとつとして入浴があります。初めの頃は、我先に入浴姿が見られましたが、絵カードで示し、入浴の順番を分かりやすくすることで、集団生活に必要なルールが守られるようになりました。また自宅では、いつもお母さんにやってもらっていた洗濯も、出来る方には自分でやっていただいています。親元から離れ、自分の事は自分でやる姿に逞しさを感じます。

『安心安全』が第一である暮らしの場ですが、6月には帰宅中の仲間が自転車で転倒するという事故がありました。右足を骨折するという大怪我をされ、入院生活を余儀なくされています。「他の仲間への関心はあまりないかも」と思っていました。一人足りない」ということは十分理解されていることがわかりました。「痛いね」と話されたり、居室を指しながら「いな



いな」と話される仲間の皆さんです。言葉による表現が難しい仲間が多いホームですが、心配されている事がとても伝わる出来事でした。

6月から、ホームに隣接しているワンルームマンションで生活する方がみえます。サテライト事業の制度を利用し、元塩ホームでの生活を経て念願の1人暮らしです。最長2年間は、かさぞぐらホームに夕食を食べに来られます。地域で力強く生きていけるよう、サポートできることをうれしく思います。

ゆたか生活支援事業所みなみ

片桐由麻・原田恵子

8.24

第4回 運営協議会開催

「運営協議会」とは、改正「社会福祉法」の施行（2017年）を受け、新たに定款に盛り込んだ組織です。利用者・家族の代表、他、地域の関連団体代表13名で構成され、法人の事業運営に関する事項を審議します。

当日は委員10名の他、理事・評議員・監事・顧問12名が参加し、来年度からスタートするゆたか福祉会「第6期総合計画」の内容に関して主に意見を交換しました。

利用者代表の2名の委員からは、「仲間の給料も上げてほしいけど、職員が辞めないよう職員の給料も上げてほしい」「身体障害をもつ仲間が利用できるホームをもっと作ってほしい」等の要望が出されました。また、地域の関連団体の代表からは「各地の自立支援協議会にもっと根づき、行政への改善要求をあげていくことが必要」等のご意見を頂きました。

近年とみに厳しくなってきた人材の確保や育成に関しても、質問や意見が出されました。「多様な人材が入職し、育っていることに確信をもち、育成の成果を大切にしてほしい」といった励ましのご意見もありました。ご家族の委員からは、「家族が高齢化するなかで、新たに必要とされている支援が沢山生まれているはずであり、そうした課題に取り組んでほしい」等のご意見を頂きました。

今回出された貴重なご意見や要望を、第6期計画に反映させていけるよう、検討をすすめていきたいと考えています。

理事 後藤 強



リハビリテーション委員会を再開しました

6月より、念願のリハビリ専門職員の複数配置が実現したことにより、「リハビリテーション委員会」が再開することになりました。この委員会は、利用者の皆さんに必要なリハビリテーション支援を提供するため、2013年に立ち上げ1年ほど活動していましたが、関係職員の退職等により活動休止状態になっていました。委員は現場管理者・理学療法士・作業療法士・看護師で構成し、3ヶ月に1度を目途に開催していきます。

6月26日に開催した第1回目の委員会では、利用者の皆さんと職員を対象に実施したリハビリニーズに関するアンケートを集約し、結果をもとに各事業所への訪問の仕方や実施する支援内容について話し合いました。今後は訪問スケジュールに沿って、リハビリ専門職員が各事業所を訪問し、対象の利用者さんひとり一人にアセスメントを行います。そしてリハビリ計画を立て、機能訓練を含むリハビリテーションを多職種で連携しながら提供していきます。

また、法人全体でリハビリテーションに関する知識を深めるため、職員向けの研修を行い、利用者の皆さんの身体機能低下防止や、安全衛生に取り組んでいきたいと思えます。

法人本部 橋本 勝利

学びを自信と力に

2019年度 正規採用職員研修スタート

《はじめに》

ゆたか福祉会の正規採用職員研修は、2月下旬の「オリエンテーション」から始まります。今回は2月28日に開催され、14名が参加しました。就業規則や入職手続きについての説明と、「職場のことを知りましょう」というテーマで、先輩職員との経験交流や管理職との面談が行われました。

《初任者研修》

「なかま・家族」の
想いからの出発

初任者研修では、なかま・家族を講師に迎え、ゆたか福祉会との歩みを「ありのまま」語って頂く「ゆたか福祉会と出会って」というテーマがあります。

「本人たちが直接語る言葉から、歴史の重みと、ともに歩んでいる職員を想う温かさ」に触れ、「がんばっていい」と思いを強くする機会になっています。

また、「ゆたか」が一貫して大切にしてきた「なかまが主人公（当事者主体）」は、「実践者」として行動していく根拠であることを、赤松氏を講師にお迎えした「発達保障論」の具体的事例から学んでいます。

ともに「考える・表現する」
チーム支援を学び合う

研修のしくみに、「スーパービジョン」の手法を取り入れながら行っているのも特徴です。5〜6名に1人ずつスーパーバイザーを配置し、「身近な先輩者」としての役割を担って頂けるよう数回の「スーパービジョ

ン研修会」も取り組んでいます。

スーパーバイザーの本格的なデビューは合宿研修です。決められたテーマについて、小集団で話し合う「司会進行」を担い、すべての受講者が考え、意見を述べることに配慮し、「チームでの課題遂行」の体験をサポートしています。

スーパーバイザー自身、これまでの実践を振り返り、実体験を通しての関わりになるため、課題に気づき自身を向上させる機会になります。

初任者研修の 充実をめざして

「初任者研修」は今年度から1日増え、4日間となりました。研修は、「社会人としての知識」（「コミュニケーション労働におけるマナー講座など）と、「社会福祉職（ソーシャルワーカー）の知識」を学ぶものとなります。講師は、法人管理者や外部の講師を招いて実施しています。

1日増えた今年度の特徴は、各種養成講座を行う専門機関の外部講師をお招きし、「介護援助技術」を学ぶ機会を設けたことです。「食事

介助」の演習では、受講者同士が「する側」「受ける側」のそれぞれを経験しました。技術的なことはもちろんですが、講師の方が伝えなかった「支援者として、支援される側」の想いを常に慮ること」を、受講者が気づき実感する機会となりました。

入職される皆さんは、新規卒卒者の専攻も様々であり、社会経験のある方も当法人の非正規職員、前職が福祉分野の方、全くの未経験者、幅広い年齢層、多様な経歴をお持ちです。「障害についての知識がない」「介護技術がわからない」などの不安な「声」に応え、今回の「介護援助技術」研修となりました。



《合宿研修》

合宿研修は大きく2つのテーマで行われました。「福祉村について知ろう」と「障害のある人の理解と関係づくり」です。

1つ目の「福祉村について知ろう」については、まず1日目に福祉村の見学と現地管理職による事業や地域との関係づくりの説明や、福祉村を利用している利用者や家族から福祉村への思い、福祉村若手職員に実践レポートを報告してもらいました。

現地管理職からの報告からは、福祉村事業の取り組みや都市部の事業所とは違う地域との距離感や地域貢献について学ぶことができたかと思えます。利用者や家族、職員からの報告では、福祉村の生活の中で成長し、豊かに生活している利用者の姿がそれぞれの視点で報告されました。

その後、見学や報告を受け、グループワークで意見交流を行いました。事前レポートの「課題1」は、「福祉村事業への理解に向けて」というテーマでした。福祉村建設の担当理事であった鈴木峯保さんがお話しな



られた「福祉村づくりに向けた思い」を読み、福祉村事業の歴史や当時の熱い思い、地域との関係づくりから学んだことをまとめ、質問等を出してもらいました。

2日目はまず、昨日のグループワークでどのような意見が出されたかについて、スーパーバイザーから報告をしてもらいました。そして、他のグループから出された意見も受け、さらに学びを深めるための意見交流を行いました。

次に2つ目のテーマである「障害のある人の理解と関係づくり」について学びました。事前レポート

の「課題2」は、「障害のある人の理解と関係づくり」というテーマでした。

入職して3カ月が経った中で、利用者への働きかけで関係づくりが「うまくいった」エピソードと「うまく作れなかった」「戸惑った」エピソードを記載してもらいました。そのレポートを基にグループワークで意見交流を行い、付箋に意見を記載、グループの意見をまとめ報告交流を行いました。

今年度も日本福祉大学の浅原千里先生に、1日目の夜からご参加いただきました。2日目の研修では最後に、グループワークでの意見交換の様子やまとめの報告を受けてコメントをしていただきました。

この「合宿研修」を通じて、それぞれの職員が多くの学びができたかと思えます。グループワークでは活発な意見交換ができ、全体会では笑顔で楽しそうに報告する姿がとても印象的でした。それぞれが各職場にこの研修で得たものを持ち帰り、利用者支援に活かしていただければと思います。

《おわりに》

正規採用職員研修は、「初任者研修」「合宿研修」「中間研修」「まとめ研修」が節目になります。またその都度、「事前・事後レポート」の課題があります。社会福祉実践者として「記録・思考・伝達」のトレーニングは欠かせないものです。前向きに取り組むことができるよう、所属する各事業所の「援助担当者」とも連携し、ゆたか福祉会全体で「人材育成」を行っていきたいと思いません。

研修担当 丸山京子 荒川元仁



「オレンジ村支援日本委員会の旅」 に参加して

8月2日～5日、ベトナムホーチミン市で建設が計画されているオレンジ村の支援ツアーに参加させていただきました。オレンジ村はベトナム戦争でアメリカ軍が使用した枯葉剤による被害者と総人口9,000万人中600万人ともいわれる障害者の自立と就労に向けた支援を行うため、ベトナム政府と枯葉剤被害者協会が建設を計画しているものです。

初日は「人間の健康に枯葉剤と原爆の影響」と題されたシンポジウムに参加しました。シンポジウムでは、結合双生児として生まれたグエン・ドクさんと枯葉剤被害の研究者、また長崎で被爆された木村徳子さんから、ベトナム戦争終結から40年以上経た現在でも4世代に渡って続く枯葉剤被害の状況、長崎での被爆体験等が報告されました。

2日目は戦争証跡博物館とキークワン寺を見学しました。戦争証跡博物館ではベトナム戦争で使用された戦闘機や戦車の野外展示の他、大砲や爆弾などの遺物、当時の報道写真

など、戦争の足跡をたどる記録が展示されていました。キークワン寺では、240名の孤児（内障害のある方170名）の生活状況を見せていただきました。最終日は激しい戦闘が行われたクチトンネル、慰霊碑堂、統一会堂を見学しました。

今回、与謝の海福祉会の青木理事長よりお誘いを受け、このツアーに参加しました。日本同様、ベトナムでも戦争体験者が年々減り続けています。オレンジ村建設をとおして、戦争を2度と繰り返さないために、悲惨な歴史を次の世代に伝え続けるべく、この事の大切さを再認識しました。

法人本部 橋本勝利



キークワン寺で生活する孤児たち

自治会担当職員研修会 開催

現在、ゆたか福祉会50周年に向け、仲間の自治会活動についてのまとめを行ってまいります。年報等から初期の活発な自治会活動を知るにつけ、「現状の自治会活動はどうなっているのだろうか」「自治会活動の歴史を知らない担当者、今、どんな思いをしながら活動しているのだろうか」という声が出されました。

このような中で7月11日、鈴木峯保氏のお話を聞き、自治会担当で意見交流を行う研修会を開催しました。鈴木氏からは、当時の仲間の様子や自治会活動を通しての成長、職員の思いなどを中心に話して頂きました。中でも「誕生日会」が一つの契機になり、その中で仲間たちが思い思いの発想やアイデアを出していく姿に、自治の力があることに気づかされました。「ゆたか若者会」が誕生し、やがて

意見交流では、感想を出しあったり、事前アンケートに基づいて各事業所の現状などを報告しました。「お話が聞けて良かった」「みんな同じ悩みを抱えていることが分かった」「もう少し意見交流が良かった」などの声がかかれ、この研修会を通して、自治会活動の昔と今を知る良い機会となりました。これを受け、これからの自治会活動に向けての課題と展望をまとめていきたいと思えます。

ふれあい共同作業所

宮園誠司



鈴木峯保氏

きょうされん大会

in あいちーなかまの輪ー

きょうされん第42回全国大会 in あいち準備状況

きょうされん全国大会まで2ヶ月を切り、実行委員会を始め、各部署の動きも慌しくなってきました。大会が迫ってくる焦りと、いよいよ始まっていく高揚感が入り混じった気持ちで各自、準備しています。

大会実行委員メンバーの特色として、若手職員が多く参加している事が挙げられます。殆どのメンバーが前回25回大会(2002年)を経験しておらず、「今大会が初めて」という方が大半です。

大会では「共同作業所づくり50年」をキーワードに、これまでの運動の歴史や活動の想いを振り返り、これからの展望を語り学びあう事を大きな目的に据えています。準備段階でも運動の歴史や

想いを知る為に、これまで運動を進めてきた家族や職員、障害者の話を聴く学習会を定期的開催してきました。想いのバトンを引き継ぐ中で、「何を大事に次に伝えていくのか?」を語り合う場となっています。

また大会では、あらゆる場面で仲間の参加を位置づけています。あいされんの利用者部会(やるまい会)を中心に、準備段階はもちろん、当日も様々な場面で仲間達が活躍します。愛知ならではの想いや特色を、全国の皆さんに伝える事ができる大会にしたいと思っています。皆さんの参加をお待ちしています!!

今治 信一郎

2019 盆供養祭 開催

「ゆたかのみんなとともに
これからも



あらたな年号が始まるとともに、国政選挙で、障がい者が国議員に選出され、私たちが代表して発言できるようになりました。わずかでも私たちの願いが政治の場に反映できるようになればと期待しています。関心をもって見守っていきたいと思います。昨今、私たちの仲間、家族の加齢・高齢化が加速しています。成年後見制度の利用とともに、亡くなった後の永遠の「すみか」の確保が、喫緊の課題となっていますが、ゆたかの共同墓地もその一つといえます。

ゆたか保護者連合会の家族のもとに依じて設置された「ゆたか」の共同墓地盆供養祭が、8月4日(日)11時から行われました。盆供養祭にはご遺族をはじめとして、藤田会長(委員長)や家族会の皆さんのほか、法人からは向理事、宇川事務長、鈴木顧問、福祉村荒川施設長が参列されました。大蔵寺の本堂および墓前で読経とともに参列者が焼香を行い、故人を偲びました。

また、共同墓地のお世話をする「共同墓地管理委員会」が盆供養祭後、福祉村本館会議室で開催されました。4月に開催した委員会以降には、大きな動きがなかったことが報告されました。会則改正では、委員会開催頻度を年1回8月にする提案があり、了承されました。あわせて緊急事項が生じた場合は、メール等で合議する旨も了承されました。

グループハウスなぐら家族会会長 永井良三



7月

- 2日(火) 権利擁護・虐待防止会議
/ 法人安全衛生委員会
- 3日(水) 安全運転講習
- 8日(月) 事業運営推進会議
- 9日(火) 保護者連合会定例会
- 10日(水) 安全運転講習 / 作業改善ゼミ
- 12日(金) ゆたか作業所「同窓会」
- 13日(土) 研究所例会
- 17日(水) 副所長会議
- 18日(木) 研究所運営委員会(拡大)
- 19日(金) 新管理職研修
- 20日(土) 星崎盆踊り
- 22日(月) 正規採用職員援助担当者会議
/ 研修部会議
- 24日(水) 所長会議
- 25日(木) 広報・ホームページ編集委員会
- 29日(月) 道德平和盆踊り(～30日)
- 31日(水) 正規採用職員「合宿研修」～8/1

表紙の作者紹介



ゆたか作業所
田口 圭さん

今年で52歳になる田口さんは、ゆたか作業所に入所して34年目になります。現在の「にぎわい作業現場」の前は、「キッチン

Yutaka」の前身「食品現場」で、盛り付けや洗い物の仕事をしていました。ティータイムや時間がある時は、「牛」や「犬」などの絵を描いて楽しんでいました。

現在の「生活介護現場」に変わってからも、絵を描くことは大好き！ヘルパーさんのお迎えまでの時間や、作業が早く終わった時などのちょっとした時間に描いています。鼻歌を歌いながら集中し、迷いのない大胆な輪郭を描いた後は、色鉛筆やクレパス、色ペンを使い、慎重に塗りわけていきます。

これからも、たくさん作品を描き続けてほしいと思います。

2019年度 正規採用職員紹介 (8月1日付け入職)



ゆたか相談支援事業所
あおなみ
安藤 笑奈

趣味・好きなこと：
マンガを読むこと、ホットヨガ、片付け

入職したきっかけは、「長く働ける場所」を探していた際に、大学生の時に社会福祉士実習でお世話になった丸山京子さんから、「長く働くにはとても良い環境だよ」という言葉があったのを思い出したからです。

また、ゆたか福祉会には、仲間を思う気持ちがとても熱い職員の方が多く、尊敬できる人がたくさんいることを感じ、「私もゆたか福祉会で働きたい!」と思いました。

仲間の皆さんが楽しく、笑顔で生活できるように頑張ります!



第2 ゆたか希望の家
看護師
鈴木 里恵

趣味・好きなこと：
ゴルフ・魚釣り・ヘボ取り

7～8年ごとに転職をし、個人医院・総合病院・老人ホーム・地域包括支援センターなど、様々な施設で働いてきました。今まで地元で働く機会はありませんでしたが、最近になり、「地元で地域の人達と一緒に働きたい」と考えるようになりました。知り合いの方より、「看護師の募集をしている」と声をかけていただき、8月より勤務することとなりました。人と人とのつながりを感じながら、仲間・スタッフと一緒に、季節の行事を楽しみたいと思います。

広報・440号

2019年9月号(2019年9月10日発行)
定価 1部 100円
法人協会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます
発行・編集 / 社会福祉法人ゆたか福祉会
印刷 / 株式会社東海共同印刷

法人協年会費・賛助会費・寄附金など福祉会への申し込み、ご送金は

法人協年会費 = 年間1口 6,000円、
賛助会員(個人1口 3,000円、企業団体等1口 5,000円)

●銀行口座 名義はいずれも社会福祉法人ゆたか福祉会

・三菱UFJ銀行 柴田支店 普通預金 291-884
・中京銀行 鳴海支店 普通預金 150-425

●郵便振替口座 00820-8-54026 社会福祉法人ゆたか福祉会



一般寄附(6~8月)

賛助会員新規加入者・更新者「芳名」一覧

(6月26日~8月7日手続き分) 順不同敬称略

金桶貴美代
梶田まゆみ
伊藤 澄子
数納 幸子
榎戸 一男

小田切龍三	清水 晶子	横井 脩	加藤 信子
堀 鉦三	鈴木 徹朗	駒村 忠俊	山田 哲也
毛利 登	山口 信一	瀬口 昭代	猪飼 節美
高橋 正教	近藤 直子	渡邊 洋子	柳川 将義
今井百合子	中武 繁治	浅海 嘉夫	柳川オリエ
西尾 明	横井 雅幸	星野 信子	鏡味千代子
山崎 恭裕	川上 雅也	伊藤 順子	山田 清文
田畑 博	梶田まゆみ	後田 剛	大橋利恵子
清水 悦子	圓尾 博之	藤田 有紀	野村志保子
金桶貴美代	伊藤 一政	堀 武夫	村井智恵子
飯田 章代	高橋香与子	畠山 由美	岡本 欣治
中園 加奈	鬼頭 宏	岩本 榮子	水谷 暎子
千葉 恵子	石川さち子	中村美津江	高橋 温美
鈴木 隆介	小林 美枝	稲垣 孝雄	小野 敏弘
岡田多津子	江坂 文恵	前田 啓貴	山本 幸人
市川 恵子	浅田 悦男	若尾 文子	池田 栄一
大野 洋志	住友 陽子	野間 聖子	浅野紀久恵
新城 紘行	松岡 政子	阪田 正子	浅野 美保
稲垣 雅代	山本富喜代	繁澤 正彦	浅野実千代
土井ちづ子	平國 哲	数納 幸子	

※利用者・保護者・職員の皆様からも多くのご寄附をいただきました。

社会福祉法人あずま福祉会
おおぞら作業所
(株)東海共同印刷
東洋病院
(株)大橋製作所
らいぶ 施設長 井出信男
港北幼稚園
内田紙店
大橋昭人事務所
おもちゃ図書館ぴっころ
御崎コンベヤー(株)
社会福祉法人たからばこ
(株)ワイクリード
(有)坪井電機
代表取締役 坪井賢三
(有)田口モーターズ
(福)コスモス福祉会
(株)毎日リネンサプライ
日鉄物産株式会社
中日本ジューキ(株)

ありがとうございました

お詫び

8月号P9掲載の「秋の行事一覧」について誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

地域ふれあい広場 (場所:グループホームエール) 誤: 10/13 (日) → 正: 10/19 (土)

その人らしく働く 暮らす

Vol.81

仲間



「夢は船でイギリスに行つて
サッカーを観ること！」

ゆたか作業所 諏訪正さん

諏訪さんは2012年9月から、作業所を利用しています。それまでは企業で働いていましたが、ある朝、着替中に突然手がびれそのまま救急車で搬送されました。その時の気持ちは、「このまま歩けなくなつたらどうしよう」と不安でいっぱいだったそうです。

その後懸命にリハビリを行い、何とか歩くことが出来るようになった諏訪さん。区役所からゆたか作業所のデイサービスを紹介され、通うようになりました。週に数回利用し、歌を歌つたり絵を描いたり、少しですがネジの仕事にも取り組まれました。利用日以外は家で過ごされていましたが、「もつと仕事がしたい」と思うようになり、2014年に現在の「にぎわい作業現場」に移動しました。

様々な仕事にチャレンジしながら、「どうしたら、この工程が早く正確に出来るのか」を職員と一緒に考え、治工具作りに取り組んでいます。

将来の夢は、船で海外へ行き、サッカー観戦をすること。「いくら貯金するの？」と聞くと「大変ですねえ」と笑いながら、作業を続ける諏訪さんです。これから夢に向かって、一緒に進んでいきましょう。

松永誠司



職員

「仲間と一緒に成長できました」

ゆたか生活支援事業所みどり 伊地知信子



ゆたか福祉会に入職して12年目になります。振り返ると、一生懸命になってしまい、仲間を自分の子供のように思い、感情をぶつけてしまうような気持ちになることもあり、落ち込んだりする事もありました。

研修会に出席させて頂く機会も多くあり、「たくさんの学びを得ることが出来た」と思っています。ホームの仲間の皆さんと接する中で、時には仲間の力を借りることも、仲間から教えてもらう事もたくさんありました。

仲間のMさんの入浴支援がわからなくて、とても悩んだ事がありました。当時アルバイトに来ていた他の仲間のお兄さんが上手にできていて、教えてもらい、ようやくできるようになったこと。また、そのMさんが正月に家から戻った時、「おめでとーおめでとーおめでとー」と何回も言うてくれ、とても嬉しかったことが心に残っています。

楽しい思い出の一つは誕生会です。2つのホーム合同で仲間や職員が集まり、料理もホームで作ったものを持ち寄ります。祝福される仲間も楽しそつで、私たちも一緒にその雰囲気喜びや、やりがいを感じたりしました。

現在は、ホームが4つになり、誕生会はそれぞれに楽しむように変わり、全員が集まるのは年末の忘年会だけになってしまいました。皆の笑顔が見られる機会を、これからもつくっていききたいと思っています。

